

2024年1月25日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
2023年度第4回ALPSセミナー
「共創が生まれる学修環境：海外大学の事例をもとに」
参加者アンケート（オンライン：Zoom）
当日参加者数： 120名 アンケート提出数： 44件

本セミナーについて、参加者の皆様から寄せられたご意見・ご感想を以下に掲載いたします。なお、原則原文のまま掲載しておりますが、個人名・組織名が特定できないよう事務局で若干の調整をおこなっておりますことをご了承ください。

1. 本日のセミナーの満足度はどの程度ですか。

- ・満足した 21名
- ・まあ満足した 17名
- ・どちらとも言えない 5名
- ・やや不満である 1名
- ・不満である 0名

2. 1. でそのように回答した理由をお書きください。

満足した

- ・ 具体例があり、わかりやすかった。
- ・ 事例や写真がたくさんあり大変面白かったです。
- ・ 学びの場づくりのムーブメントがよく理解できました。今現在を考えて設計してもすぐ陳腐化してしまうので、時代の先を見据えた学びの場づくりが大事であると感じました。
- ・ アクティブラーニングや、ラーニングコモンズといった大きく曖昧言葉に対して、外国の事例をもとに具体的な空間づくりの考え方を学ぶことができた。
- ・ 都市計画と建築について（職務というよりは趣味の領分で）興味があったので、そのあたりも絡めた事例が多数紹介されていて、とても興味深かったため。
- ・ 海外の事例を沢山聞くことができたため、新鮮な気持ちで楽しく受講することができたから。
- ・ アクティブラーニングへと導く隠れたカリキュラムの内容が勉強になった。
- ・ 海外の大学の様子やカリキュラム等について、様々な大学のお話をまとめて聞くことができる機会がなかなかないため、非常に貴重な時間となったため。
- ・ 国内外の事例を知ることができたため
- ・ 大学や都市の環境、まちづくりという視点から話を聞くことがこれまでなかったため、とても興味深く話を聞かせていただきました。
- ・ まちと大学という視点が興味深かったから。
- ・ 大学というものの歴史・理念のお話もあり、海外の大学の画像を多く取り入れてのご説明でしたのでわかりやすかったです。
- ・ 様々なキャンパスの紹介があり、それぞれのコンセプトが大変興味深かった。
- ・ 普段聞くことができないようなご講演を聞くことができたため。

まあ満足した

- ・ 外国の大学事情が参考になった
- ・ （私にとっては）先生がおっしゃる「フィジカル」なものとDX時代だからこそのバーチャルなものとのバランス・関係性を整理するきっかけになったから。
- ・ 大学の将来構想を考える上でヒントになる事例を知ることができたから。

- 大学もその土地と一体化した町の1つとして機能していった方が良いと考えたからです。
- 色々な大学の事例が見れた
- 海外事例が多く紹介されていて参考になった。
- 海外のさまざまな事例を知ることができ大変勉強になりました。
- 本学でも新しい建物を建てる計画があるので参考になりました。
- たくさんの事例とともにこれから求められる学修環境について考えるヒントをお示しいただいたように感じました。
- 海外の数多くの事例を、羨望のまなざしで興味深く拝見いたしました。
- 空間の話が有意義でした。
- 様々な空間設計などの実践例を知ることができたことや、地域に応じたキャンパスの在り方について考える機会となったため。
- 海外の事例を紹介いただき、理想的なモデルを学ぶことができた。
- スライド 31 や 39 の内容が重要であることがよくわかった。たくさんの写真や施設の様子を見せていただいたが、その一つ一つをもっとじっくりみて、何が良いポイントなのかもっと知りたかった。

どちらとも言えない

- 既存の施設設備を利用した事例等お伺いしたかったため。
- 理解が難しい用語などがあり、自身の勉強が足りなかった。
- 業務の都合で途中参加となってしまったため。

やや不満である

- 個人的には、建築系の方から何度も伺ったことがあるような.....お話でした。

3. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ネットワークの重要性が理解できた。
- ハードだけでなくソフトが大事だということ
- 諸外国の学修環境、それぞれをそのままとり入れることはできない／難しいことは承知しているが、事例としてどのような環境づくりをしているか写真等によって見られた点。
- 共創を生み出すためには公式カリキュラムに加え、隠れたカリキュラムが必要ということ。イノベーションを推進する研究施設に必要な要素についての話も参考になった。
- 諸外国の状況を拝見出来ました。
- 地域と成長していく学びをもっと実現させていくのが日本の学びの課題かな？
- 学びの場には隠れたカリキュラムが存在しているという発想はなかったです。新しい発見ができたと思います。
- 日本のキャンパスが何故魅力的でないのか、ということは常々疑問だったので、今回の質疑応答でなんとなく分かった気がした。
- 千葉大が墨田サテライトキャンパスを持っていることを初めて知りました。
- 開かれていることの大事さと、そのような場を作る方法は新規に建築することに限られない、ということ。
- オープンな場や交流を生み出すしかけ、フレキシビリティがイノベーション創出に寄与するというこ

とが分かりました。

- ラーニングcommons等の整備により、アクティブラーニングを促す「スペース」はありますが、そこに導くための隠れたカリキュラムの整備は、本学ではまだまだ足りていないなと感じました。どんな環境づくりを行うことで学生同士の対話が増えていくのか、自主的な学びやイノベーションへとつながっていくのか。これは図書館等の職員だけでなく、大学全体で話し合っていくべき事項だと感じました。貴重なお話をありがとうございました。
- キャンパスコモン形成について。共創を生み出す隠れたカリキュラムについて詳しく分かった。
- 本学図書館でも、館内に教え学びあう場、教職員・学生の交流をはぐくむ場を設ける計画を進めており、大変刺激になりました。
- 建築や環境が学びに与える影響の大きさについて知ることができた
- 大学が地域の町と協働することで、学生が町へ出ていき、町を学びの場として活用できるし、地域の方々も学生と交流したり、地域活性化につながるのではないかと思った。また、私が勤務している大学は留学生も多いため、留学生の寮だけでなく日本人の寮（地方出身者）も作ることで、その中での交流も増え、学ぶ場としてだけでなく交流の場としての役割も果たせるのではないかと思った。すぐに寮を作るのは難しいが、今ある環境の中でそういった場を作る、物理的な空間を作るといったことはできそうなので、学生任せだけでなく教員や大学職員が進めていかなければならないなと思った。
- 学びの在り方が変化しつつあるということ。
- 千葉大学が墨田区にサテライトキャンパスをつくったこと。素晴らしいです。
- 理想的な学修環境は時代とともに変化すること。
- 人が自発的に集まりたくなる仕組みが重要であることが分かった。
- 「共創の場」を隠れたカリキュラムとして捉える視点

4. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- その先の共創が生まれる学修環境について、成果等が具体的に見えてこない
- フィジカルとDXの融合について、もう少し様々な事例が知りたいと思った。
- どうやったら交流を生み出すことができるのか？いくつか事例からヒントの提示はあったと思いますが、ただ場を用意するだけでは交流が始まらないと思うので（特に日本人はシャイで他人との壁が高そうなので）、日本でやるときにどういう仕掛けがあればいいのか、日本の事例も聞ければもっと役に立ちそうだと感じました。
- 質疑応答の際、会場から最初に質問なされた先生の発言は「海外は良くて日本はだめだ」と受け取れるような内容だったが、海外と言っても様々であり日本もまたしかりであるのに、あまりにざっくり一方的にとらえすぎている点が気になりました。
- 館内スペースの刷新（用途・役割の刷新）を目指して、さまざまなアイデアを練っても、最後に資金面での折り合いがつかず、計画が縮小してしまうことが多いと思います。たとえば、古くなった設備や什器を廃棄するだけでも何十万もかかってしまい、新しいものにお金が回らない等。そんな時の打開策が知りたいです。
- 質問にもあったのですが、やはり現在ある建物をリノベーションのようなかたちで活用している事例をもう少し知りたかったです。
- 私が勤めている大学は郊外で周りが田んぼに囲まれています。通勤時も地域の方とすれ違うことが少なく、協働や交流って難しいな…と思いながら聞いていました。地方の郊外にある大学で、成功事例などあるのでしょうか。どのように仕掛けを作るかって重要だなと思いながら聞いていました。

- 大学図書館ではラーニングcommonsを導入して一定の効果があつたように思っていました、コロナ禍を経て個別学習利用が増えるなど、使われ方がまた変わってきました。バーチャルとの関係を含めて、今後の図書館空間をどうしていくか、模索が必要と感じています。
 - 千葉大学がなぜ東京墨田区？
 - どうすればPlace-making な仕組みを作ることができるのか（新築や改築無しに）。
 - 配付いただいた資料を見直して勉強します
 - 特にありません。（同様のもの3件）
5. **大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。**
- 奨学金制度についての見直し。
 - 高校での学びや施設の使い方の延長で大学の学内設備を使い始めるので、教育・学修支援の方策の一つとして、高大連携・接続にももう少し目を向ける必要があるのではないか、そしてそれは結果的に地域貢献にも繋がるのではないかと最近考えるようになりました。
 - 今まさに取組中。ご報告できる段階になったら、スタッフの誰かが、どこかでご報告するかもしれません。
 - 学修支援を行う場は、学生が訪れやすい場であり、何か学修に関する支援が必要である時に、思い出せる場となることが重要だと感じています。
 - 在り方についての考え：学びの場や機会を提供しつつ、学生の主体性は阻害しない在り方が良い、必要と思う資質・能力：今の学生の性質やニーズを見極める能力
 - 教育・学修支援がこうあるべきというよりは、学生が何を学びたいと思っているのか、ということに焦点をあて、教える側と学ぶ側の接点を見抜くことができるような能力や環境、スタッフが必要と考える。
 - 学生の自主的な学びを支える資源としての図書館をつくっていくことがこれからの図書館の在り方なのかなあ、と考えました。
 - 「教育・学修支援のために必要と思う資質・能力」として、授業のみならず、今回のセミナーで取り上げられていたようなイノベーションを生み出すことができるような「共創の場」「共想の機会」を作り出すことができるような力
 - 特にありません。
6. **本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。**
- 上野先生、有難うございました
 - 満足できる内容でした。
 - 私も研究室の扉を閉めていることが多く、他学部の学生や先生が何をやっているかほぼ分かりません。もうちょっとオープンにしないと、誰でも来て分からないことや興味ある事話せるようにしないと、って思いました。
 - 考えさせられる内容でした。ありがとうございました。
 - 大学図書館ではラーニングcommonsを導入して一定の効果があつたように思っていました、コロナ禍を経て個別学習利用が増えるなど、使われ方がまた変わってきました。イノベーションcommonsへの対応やバーチャルとの関係を含めて、今後の図書館空間をどうしていくか、模索が必要と感じています。
 - 地域社会と大学のかかわり、イノベーションなどいろいろなお話をきくことができ、勉強になりました。大学のほかにアップル本社やGoogle 本社周辺の画像などとても貴重な資料をありがとうございました。

千葉大学は進化を続けているということも今日のセミナーでわかり、ALPS 修了生の自分は成果を出せていないので頑張らなければいけないと反省しました。

- 学生・大学をとりまく社会の要請に応えられるように、常にアップデートできるような豊かな発想と情報収集力、小回りの利く組織が必要ですね。
- 本日はこのような機会を設けてくださりありがとうございました。

7. ご所属について、該当するものを選んでください。

- ・千葉大学に所属 8名 ・千葉大学以外に所属 36名

8. 身分について、該当するものを選んでください。

- ・学生 1名 ・教員 9名 ・大学職員(図書館職員を除く) 9名 ・図書館職員 22名
- ・その他 3名

9. 千葉大学アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けします。「登録しない」を選択してください。)

- ・登録する 10名 ・登録しない 34名